

学位被授与者氏名	原賀 いずみ
論文題目	動物園を舞台にした児童文化運動の展開 ～到津遊園と到津林間学園の変遷をもとに
論文審査結果の要旨	<p>この論文は、北九州の到津遊園で行われてきた林間学校に着目し、＜林間学校―動物園―児童文化＞の関係で展開を整理することによって、活動内容の特性を説明している。児童文化運動と動物園教育の間に位置することで、口演童話が動物園での「語り」となり、情操教育と児童教育が、子どもの社会教育としての絵画・歌・レクの活動として展開してきた経緯を歴史的に明らかにした。</p> <p>このことは、環境教育・自然体験で着目されるインタープリターやインタープリテーションが、北九州の動物園を舞台とした児童文化活動で育まれていたことを示した。児童文化連盟が動物園で林間学校を実施している経緯や展開、特徴を説明するために、実践記録や関連資料を収集・整理した意義も大きく、あわせて関係者のヒアリング、関係者の記録資料による検討も行っている。</p> <p>本論文で指摘する「到津的インタープリテーション」とインタープリテーションの概念など整理・検討すべき課題は残されているものの、資料による実践検討、関係者の願いや思いを足跡や資料によって裏付けできている。組織形態やプログラムの変容についても、時代背景や活動条件も踏まえて分析を行っている。</p> <p>実践史の学術論文として適切にまとめられている。よって修士論文として評価する。</p> <p>令和3年2月17日に、オンラインを利用し、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。</p>